

母と子のにわ

—利用者のみなさまと母子医療センターをつなぐ—



発行

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立母子保健総合医療センター



第32号

2014 Autumn

目次：

- 手術棟が
オープンしました！ 1
- 患者支援センターが
オープンしました！ 2
- 母性東棟の
お部屋が新しく
なりました！ 3
- ファミリーハウス宿泊
利用について 4
- 第5回きっずセミナー
を開催しました！

手術棟がオープンしました！

2014年5月に新しい手術棟がオープンしました。地上2階、地下1階の建物で、1階に集中治療室と救急治療室、2階に手術室、地下1階には、中央滅菌材料室とMEセンターがあります。建物の外壁と、中の壁の色は白が基調で、入り口と広いエレベーターホールは《街まち》をテーマにしたデザインで飾られています。地下1階、1階、2階すべての階が元の病棟とつながっているので、外に出る必要がなく、病棟から手術棟に移るときの移動がスムーズです。

手術棟設立の第1の目的は、築後30年以上経過し老朽化が進み、手狭になった手術室を一新することと、増加する手術件数に対応できなくなった手術室を増やすことでした。手術件数の増加と、新しい術式の導入により、手術に使用する器械や、顕微鏡、レーザー照射装置、レントゲン撮影機、CTなどは増加する一方で、窮屈だった手術室が広くなり、働きやすくなりました。一つ一つの手術室も広くなりましたが、収納スペースや廊下も広くなりゆとりができました。手術室（アンギオ室を含め10室）は、廊下と部屋の壁や扉にウサギ、トリ、キリン、カンガルーなどの動物のモチーフが飾られていて、ストレッチャーで手術室に運ばれる小児患者さんの視線を意識しています。手術室の中は部屋ごとにピンク、ブルー、オレンジなどにまとめられそれぞれのグラデーションの色調になっています。心臓カテーテルや血管造影を行うアンギオ室も手術室の中にできました。

設立の第2の目的は、病院内の重症の患者さんのための集中治療室（ICU）を広くしベッド数を増やすことと、救急患者さんや他施設から搬送されてくる小児重篤患者さんを受け入れやすくすることでした。ICUの面積が広がったので、ベッドとベッドの間に十分な間隔が取れるようになり、患者さんのプライバシーに配慮しやすくなりました。感染症対策も取りやすくなりました。手術室とは専用のエレベーターで連結されているので、ICUと手術室の移動が清潔に素早く行われます。ICUはこれまで8床でしたが、10月からは10床に増床されます。ICUの隣のHCUも10月からオープンします。救急車の搬入口も広くなりました。

設立の第3の目的は地下1階に中央滅菌材料室とMEセンター（医療機器センター）をつくることでした。病院内で清潔器材をもっと多く使用する手術室とICUの直下に中央滅菌材料室が配置さ

れることにより使用済み器材と滅菌器材の運搬の効率がよくなりました。MEセンターが広がったことで、すべての病棟の人工呼吸器、輸液ポンプなどの一元管理がしやすくなりました。

手術棟の建設はわれわれ職員の長年の念願でした。ご支援をいただいた多くの方々に、心より御礼申し上げます。

（文責 副院長 木内恵子）



センターオリジナルキャラクター
モコニャン

患者支援センターがオープンしました！

患者さんがより良い医療を受け、地域や家庭で安心して生活できるよう、総合的に支援することを目的に地域医療連携室、医療相談室と在宅医療支援室を統合して2014年8月4日に患者支援センターをオープンしました。

同一エリア内に3つの部署をまとめて、看護師、保健師、ソーシャルワーカーや心理士が常に連携して、患者さんやご家族の心配なこと、お困りのこと、お気づきのことなどを解決するお手伝いができるようにしました。

相談者のプライバシーに配慮した6つの面談室も設置しておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

総合受付カウンター患者支援センターは以下の部署で構成されています。

地域医療 連携室

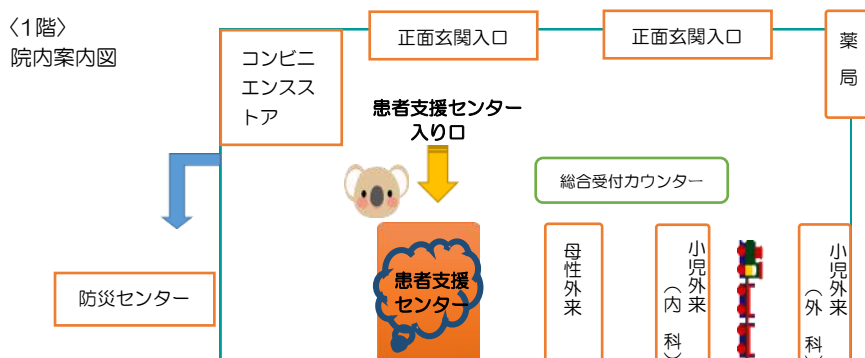
初診予約受付をはじめ、地域のニーズに沿った適切な医療が提供できるよう、医療機関や関連施設と連携をとります。また、地元医療機関への受診や転院等についてもお手伝いいたします。

総合 相談室

医療ソーシャルワーカー、看護師、心理士、保健師を配置し、患者さんやご家族からのご相談を一元的にお受けします。小児がん相談は院外の方にもご利用いただけます。これまでの医療相談室の業務は、総合相談室内に集約されました。

在宅医療 支援室

地域医療連携室と協力して、地域の医療機関・訪問看護ステーション・福祉関連機関などと連携をとって、患者さんが安心して在宅療養に移行できるようにお手伝いいたします。



(文責 患者支援センター長 里村憲一)

大阪府立母子保健総合医療センター 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- ・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- ・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- ・地域の保健医療機関と連携して母子保健医療を推進します。
- ・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

母性東棟のお部屋が新しくなりました！

平成26年5月、母性東棟の部屋が一部リニューアルし、ベッド・家具・ソファ等も新しくなりました。

妊婦中やお産後の母子同室をゆったりと過ごしていただけるよう、女性らしい色調を大切に、落ち着いた快適な空間を提供しています。



—リニューアルしたお部屋を紹介します—

- *各部屋有料となります。
- *テレビ・冷蔵庫は、床頭台用カードを購入せずに無料で使っていただけます。
- *ご利用希望時は、母性外来・病棟などでお伝えください。

【4床部屋】2室

プライバシーに配慮し、家具調のパーテーションで仕切りをしています。

料金：2,500円
(税別)



【2床部屋】1室

プライバシーに配慮し、家具調のパーテーションで仕切りをしています。

料金：5,000円
(税別)



【個室】7室

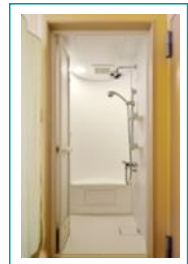
全室トイレ付です。シャワー付きのお部屋を2室準備しています。

料金：シャワー付き：10,500円 (税別)
シャワーなし：10,000円 (税別)



和室を1室準備しています。

自宅と同じように畳で過ごすことができ、くつろいでいただけます。(シャワーなし)



(文責 母性東棟看護師長 椿野幸美)

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立
母子保健総合医療センター



〒594-1101
大阪府和泉市室堂町840
TEL:0725-56-1220 (代)
FAX: 0725-56-5682

ホームページもご覧ください。
<http://www.mch.pref.osaka.jp>

センターからのお知らせ

ファミリーハウス宿泊利用について

母子医療センターには、ファミリーハウスという施設があります。これは小児がんなどの慢性疾患児の付添いをされるご家族の方が宿泊されるための施設で、遠方から来られるご家族の負担軽減を図るために設置いたしました。この度、さらなる療養環境の充実や負担軽減を目的として再整備し、平成26年3月3日（月）に新ファミリーハウスがオープンいたしました。ご利用される方には、小児患者さんとご家族の団らんのためとして、またご家族同士での情報交換や交流の場として、これまで以上に活用していただきたいと考えております。

—お問合せ・お申込み—

月～金（土日祝及び12月29日～1月3日を除く）9:00 ～ 17:30

ファミリーハウス事務局 TEL:0725-56-2325

事務局 総務・人事グループ TEL:0725-56-1220

★ 詳しくは、センターホームページをご覧ください。

http://www.mch.pref.osaka.jp/hospital/inpatient/family_house.html



第5回きっずセミナーを開催しました！

平成26年8月9日（土）、夏休みの恒例になりました「きっずセミナー」を開催しました。

今回は過去最高の636名のご応募を頂き、また、当日は台風11号が大阪に接近中にもかかわらず、338名の小・中・高生が参加してくださいました。たくさんのご応募・ご参加ありがとうございました。

来年は、平成27年8月8日（土）に開催予定です。詳細が決まりましたら、センターホームページなどでお知らせします。



Aコース（整形外科手術体験）



Cコース（看護師体験）



Bコース（救命救急体験）



Dコース（医療技術者体験）

